

光明寺だより

第71号
平成25年1月発行
眞言宗 光明寺
宇都宮市野沢町342
TEL 665-0545
FAX 665-5422

智山勤行式(No.2)
三歸禮文

人身受け難し今既に受
く。佛法聞き難し今既に
聞く。此の身今生に度せ
ずんば更に何れの生に於
いてか此の身を度せん。
大衆諸共に至心に三寶に
歸依したてまつる。

口語訳

『多くの生きもののうちで人
間の身として生まれることは極
めて稀なのに、今私はこのよう
に人間として生まれています。
人間として生まれても、仏の教
えに出会うことは極めて稀なの

に、今私はこのように仏の教え
に出会っています。このように有
り難い縁にめぐりあったこの身
が、今の世で平安な気持ちを得
ないで、何に生まれいつの世に
なつたら平安になれるでしょう。
心安らかなるために、私は多
くの信仰を同じくする人々と
共に、至心に仏宝・法宝・僧宝の
三宝に帰依致します。』

人間として生まれることにつ
いてお釈迦さまは、このように
述べています。「たとえは、大海

の底に一匹の盲亀がいて、百年に
一度、海上に浮かび上がるのだ。
その海には、一本の浮木が流れて
いて、浮木の真ん中に、一つの穴が
ある。盲亀が百年に一度浮かび

上がった際に、その浮木の穴へ
ちようど、頭を突っ込むことが
あるだろうか」と尋ねられた。
阿難という弟子が、「そんな
ことは、毛頭、考えられません」
と答えると釈尊は、「誰でも、そ
んなことはありえないと思うだ
ろう。だが、何億兆年よりも永
い間には絶対にな
いとは、誰も言い
切れないであろう。
人間に生まれる
ということは、この
例えよりもあり
えない有り難いこ
となのだよ」とおっ
しやっています。

私たちは、日常

々有り難うと言
いますが、有るこ
とが稀である、と
いうことから出た
言葉なのです。こ
のような、受け難
い人身を受けたと
いうことは、人間
に生まれなければ

できない大事な目的があるとい
うことなのです。私たちは、その
重大な使命を果たすために人
間に生まれてきたのです。



第7回 関東88ヵ所霊場巡礼(63番金剛院にて)

※智山勤行式は、眞言宗智山派の経本で
す。誰にでも唱えることができる簡単な
お経です。必要な方はお寺にお声がけ
ください。

謹賀新年

今年もどうぞ

宜しくお願ひします。



昨年は震災復興の年、年末にはこれからの日本の舵取りをする衆議院選挙が行なわれました。結果は政権がまた交代になりました。より良い日本は何時来るのか、これから期待したいものです。

お大師様のお言葉に、「あなたは自分が一番大事だと思つていますか？自分だけが特別な存在だと思つていますか？」と質問されれば、どなたも先ず自分と答えるでしょう。お大師様は

このように言っています「自分が一番大切だと思ふなら、皆等しく大切。自分が特別な存在だと思ふなら、皆等しく特別なのです」姿かたちは違えども、縁によつてつながり、互いに支え合ひながら私たちは存在しています。お大師様のたくさんの教えを人生の指針とし、これからも檀信徒の皆様とのご縁を大切に日々正精進してまいります。

私個人としての、今年のご目標は、人に優しく、気持ちや和む話し方で、皆様と接したいと思ひます。もう一つ、光明寺の看板に傷をつけないように、正見、正語、正行を日々の生活の中で生かしていきます。

住職記



光明寺四季の諷詠 (No. 41)

祈り 十四首

恵華

● 光明寺の ママと呼ばれて ふりかえる 湯船のなかに 語らいつきず

● 夫逝きて 七年たてど 悲しみの 消えぬ思いを ききて涙す

● われも又 夫逝き二年 三年の 供養をすまず 師走十五日

● 悲しみは 消ゆることなし 夫逝きて 二年の月日 昨日のごとし

● 大正の 生まれの人が つぎつぎと 逝くを悲しむ われも大正

● 朝夕に おがむ仏に 一輪の 赤き花そえ 心やすらぐ

● 年ごとに 彼岸花咲く 墓多し 残りし人の 悲しみの花

● 境内に 響くビルマの 鐘一打 祈りのささげる 老いし人あり

● 戦死せる 兄をおみし 歌一首 ビルマの鐘の 石に刻みぬ

● 激戦の 果に散華の 兵しのび 涙にむせぶ ビルマの戦跡

● 教子と どんぐり拾う 最中に 開戦ききぬ 七十一年前 (開戦=真珠湾攻撃)

● 戦の 最中に生きし われならば 未だにすべてが まぶしくみえる

● それぞれに たつきのありて 会話なき 一日おわりぬ 師走夕ぐれに

● 打つ人の 心うつして 響きくる 除夜の鐘きき 今年も終る

第七回関東八十八カ所団参

平成二十四年十月三〜四日、第七回関東八十八カ所団参に行ってきた。今回で最後の旅、足掛け三年やつと八十八カ所を成満できることの嬉しさと、これで終わりなのだという寂しさの中出発しました。そんな心意気が通じてしまったのか、秋晴れの快晴とは行かず少しじめじめした曇り空の中での旅立ちとなりました。



宇都宮ICから東北道に乗り八十二番札所、埼玉県加須にあります金乗院へ、大変のどかな場所であり自然豊かなところでありました。朝はやくにも関わらず住職とお孫さんにお出迎えていただきました。一心に本尊阿弥陀如来の前で法楽をあげているとお孫さんが舞を踊って

くれました。それがまたお経のリズムにあって、なんだか和やかな雰囲気。みんな真面目な顔して唱えていたから気を使ってくれたのかな。次は久喜にある七十九番札所雨寶寺へ、雨乞いで有名なお寺である為、雨の心配もありましたが熱心なお経が聞こえたのかなんとか持ちこたえてくれました。バスに少し揺られ菖蒲にあります「六三除け」で有名な八十番札所の南蔵院、「東国花の寺百寺」に指定されている八十二番札所の正法院と参拝し、吉見観音の呼称で有名な七十五番札所の安樂寺へ、本堂にて左甚五郎作「野荒しの虎」の説明をうけ改めて彫刻の素晴らしさを知りました。帰りには、地元で有名なだんご屋にて「魔除だんご」の接待をうけました。

吉見百穴近くにて昼食を済ませ、川島にあります七十四番札所圓通寺へ、川島は埼玉県のほぼ中心に位置し、四方を川に囲まれていることから川島の名がつけられたといわれています。このお寺は徳川の祈願寺として栄えたという記録が残っていました。次に第七十三番札所入間にあります圓照寺へ、堂内には各界名士の絵馬がありました。それから東京都青梅にあります七十二番札所、観音寺にて二日目最後の法楽をあげ、本尊の観音様に一日無事であったことに感謝をこめました。観音寺

は巷で塩船観音と呼ばれており京都にある醍醐寺の別格本山でもあります。五月にはお堂の回りを囲むたくさんのつじが綺麗に咲くので住職も是非もう一度その時期に足を運んで欲しいとおっしゃっておりました。住職に別れをつけ、宿泊所についたら途端に雨が降り出しました。仏様のご加護があったことに感謝しつつ、雨のしたたる岩蔵温泉にてゆっくり体を休めました。

二日目は、七十二番札所昭島の阿



弥陀寺からお参りしました。雲行きがまだあやしい中バスに揺られ八王子にある六十三番札所の金剛院へ、高野山金剛峰寺の準別格本山でもあるので敷地も広く、境内にはたくさんのお彼岸花が咲いておりました。普段はみることができない白色の彼岸花もありました。続けて日野市にある六十八番札所の安養寺、調布市にある六十九番札所常性寺へと参拝し、深大寺にて深大寺そばをいただきました。最後に三鷹市にある

七十番札所井口院にて結願となりました。井口院のご住職に長旅でお疲れであろうと接待をうけ、体を癒し、バスにて光明寺に帰着、結願したことを光明寺御本尊に報告し無事成満となりました。

平成二十一年秋から七回にわけ、百カ所近くのお寺を参拝しました。道中険しい道もありましたが、一生懸命歩いて、お経を唱え、一心に祈りました。この思いはお大師さまに届いたことでしょうか。またひとりひとりが一心に唱えた祈りは、先般の東日本大震災にて亡くなられた方たちへの供養、ならびに被災地の復興祈願にもなってくれたと思います。私たちの心にはいつもお大師さまがいてくれます。

同行二人 南無大師遍照金剛



お寺から

◎光明寺霊園、上横倉霊園について

光明寺霊園(境内墓地)につきましては、震災で痛んだお墓も概ね復旧できましたが、一部地盤の弱かった所、古い墓石等、未修理の所があります。原則、各家での修理となりますが、共用部分については、お寺の方で整備致します。ご協力をお願い致します。

上横倉につきましては地盤が固く、まったく問題がありませんでしたので、これから墓地を求めたい方にお勧めします。また永代供養墓苑は、合祀墓(カロウト)、預骨室があり預骨室の管理料二万円(二年間)。永代供養は、毎年春の彼岸に戒名(俗名)読み上げ供養を致します。永代供養につきましては二十万円の冥加料を頂戴しております。

当山では、光明寺霊園、上横倉霊園共に、墓地全体の景観を損なわない為、また、共同使用部分の管理運営面等、円滑に行う為、指定石材店設けています。檀信徒の皆様には、ご理解と、ご協力をお願い致します。

◎密厳流御詠歌講員を募集しております。

(毎月第二、第四金曜日、午後二時)

楽しくご指導致します。お遍路、巡礼にこれから行かれる皆様には是非、御詠歌を勉強していただき、巡拝先で唱えていただければ、更に感銘深い巡拝ができるかと確信致します。檀信徒、一般も可、皆様の「ご連絡をお待ちしております。」

住職／密厳流三等総本部師範 副住職／密厳流五等師範



カロ外室

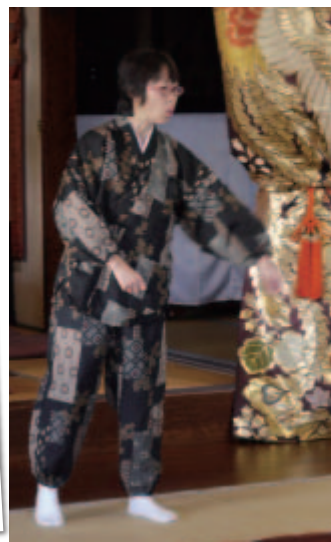


預骨室

編集後記

◎衆議院選挙が終わり、民主完敗、自公復活、維新も票を伸ばしました。どなたがなられても同じではなく、これからの日本が住み良い国になることを願いたいものです。

◎恒例の大般若(毎年十二月八日)昨年はさとうもと子さん(写真)お迎えし「栃木お



もしろ昔語り」を講演して頂きました。堂内には笑い声がたえず、楽しい一日を過ごす事ができました。これからも、いろいろな方をお招きしたいと思います。

(住職記)

